

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 理事長 大原 一憲
事業名	あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会事務局業務等委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	B
(2) 予定外のことにについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業に興味深く取り組むことができたか。	B	B
(2) 事業への取り組みを通じて達成感を感じられたか。	B	A
(3) 事業を通じて新しい展開やつながりをつくることができたか。	A	A
(4) 事業を実施するにあたり事務や準備を適切に行うことで、事業効果を発揮することができたか。また、互いに協力することができたか。	A	B

※事業：実行委員会の支援事業等

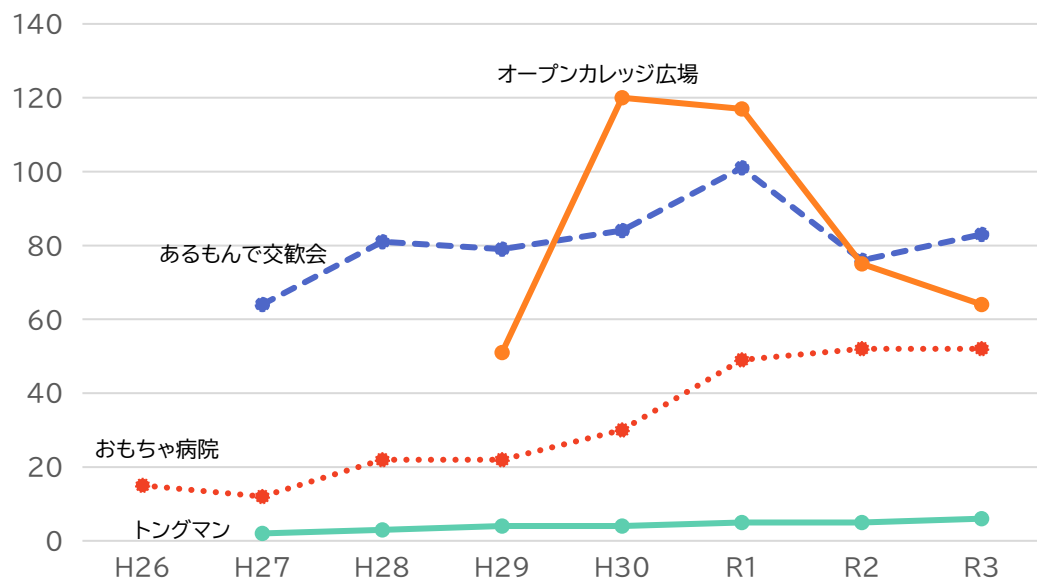
(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容																																																
1	評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、啓発がより進んだか。																																																
	測定方法	あまがさき環境オープンカレッジ主催活動・連携活動参加者数の増減により測定																																																
	結果	参加者数の推移 <table><thead><tr><th>年度</th><th>合計</th><th>主催活動</th><th>エコあまフェスタ</th><th>連携活動</th><th>企画活動</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>8,800</td><td>5,800</td><td>2,800</td><td>400</td><td>0</td></tr><tr><td>H28</td><td>4,200</td><td>2,000</td><td>2,000</td><td>200</td><td>0</td></tr><tr><td>H29</td><td>5,200</td><td>2,200</td><td>2,500</td><td>500</td><td>0</td></tr><tr><td>H30</td><td>10,500</td><td>5,200</td><td>2,000</td><td>3,200</td><td>0</td></tr><tr><td>R1</td><td>10,800</td><td>4,800</td><td>2,500</td><td>3,500</td><td>0</td></tr><tr><td>R2</td><td>1,800</td><td>1,800</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R3</td><td>4,800</td><td>2,800</td><td>1,500</td><td>500</td><td>0</td></tr></tbody></table> ※H28 以降、市民まつり出店による参加者のカウント法について作品作りを体験した人に限定したため、参加者数が減少している。 ※H30 以降は参加者 3,000 人の水辺まつりから連携活動申請があったため、連携活動の参加者数が増加している。 ※R2 年度から新型コロナウイルス感染症の流行のため活動数が激減し、それに伴い参加者数も減少している。 ・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止や人数制限を余儀なくされた活動が多くあったが、昨年度実績と比べると全体参加者数は増加している。 ・昨年度は中止となった「エコあまフェスタ」について、令和 3 年度は「オンラインエコあまフェスタ 2021」として zoom での中継によるオンライン開催に挑戦した。当日の様子は youtube でライブ配信を行ったほか、後日アーカイブ動画の配信を行った。 当日の Zoom 参加団体は 19 団体、Youtube での配信時間は 5 時間 2 分、配信中の延べ視聴回数は 523 回（ライブ配信終了時点）、最大同時接続数は 64 人であった。アーカイブ動画の再生回数は 1,447 人（令和 4 年 4 月 4 日 0 時時点）である。	年度	合計	主催活動	エコあまフェスタ	連携活動	企画活動	H27	8,800	5,800	2,800	400	0	H28	4,200	2,000	2,000	200	0	H29	5,200	2,200	2,500	500	0	H30	10,500	5,200	2,000	3,200	0	R1	10,800	4,800	2,500	3,500	0	R2	1,800	1,800	0	0	0	R3	4,800	2,800	1,500	500	0
年度	合計	主催活動	エコあまフェスタ	連携活動	企画活動																																													
H27	8,800	5,800	2,800	400	0																																													
H28	4,200	2,000	2,000	200	0																																													
H29	5,200	2,200	2,500	500	0																																													
H30	10,500	5,200	2,000	3,200	0																																													
R1	10,800	4,800	2,500	3,500	0																																													
R2	1,800	1,800	0	0	0																																													
R3	4,800	2,800	1,500	500	0																																													

通年、一般向け活動の各回の平均参加者数



- ・オープンカレッジ広場、おもちゃ病院、あるもんで交歓会など、通年で広く一般に向けて行っている活動については、各回の平均参加者数はおおむね増加の傾向にあり、地域での環境活動の場、市民同士の交流の場として定着していることがわかる。
- ・参加者からは「まだ使えるものを捨てずに済んで嬉しい」という意見なども寄せられており、市民が生活の中で感じていた思いを環境保全の意識と結びつけ、実現させる場としての役割も果たしている。

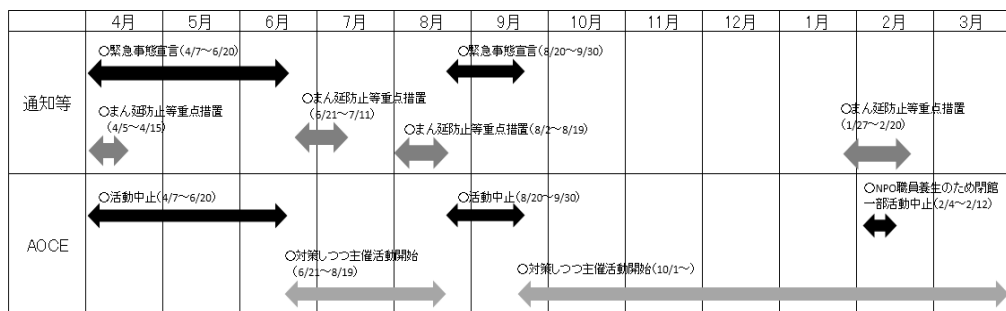
以上のことから、事務局がボランティアの活動環境を整えるなどあまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、多くの市民に環境についての意識を啓発することができ、市民への啓発がより進んだ。

2 評価指標 事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたか。

測定方法 主催活動アンケート問6について、環境に関連する6項目に「◎」「○」と答えた人の割合の増減により測定。

結果 アンケートについて、令和3年4月1日から令和4年3月31日までを集計。総回答者数は547人。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により活動中止期間は次のとおり。

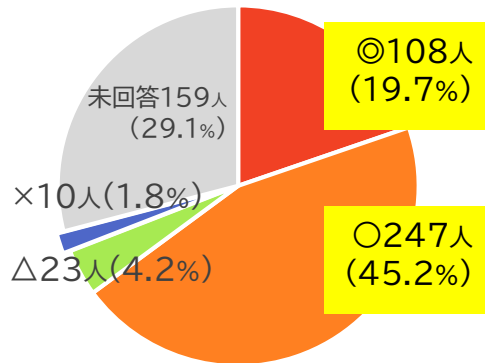


※中止
2/5おもちゃ病院

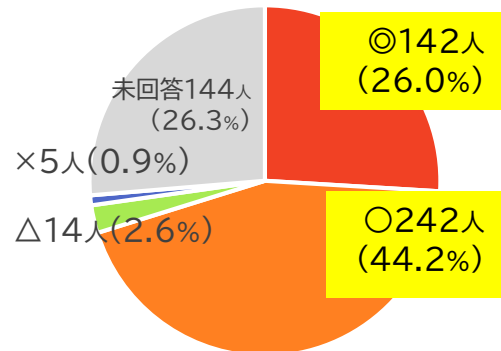
■アンケート問6「参加して感じた気持ちを◎、○、△、×で教えてください。」について

問6から、環境保全活動に関連する6項目をぬき出し、「◎」もしくは「○」と答えた人数を調べる。

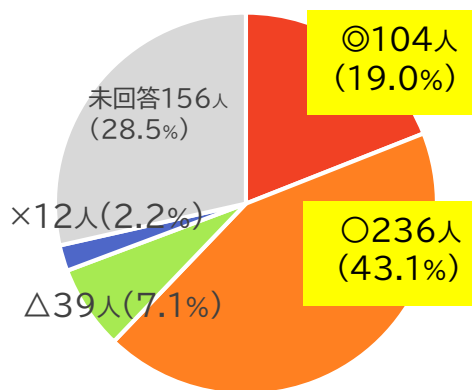
環境にやさしい暮らしへの
ヒントが見つかった



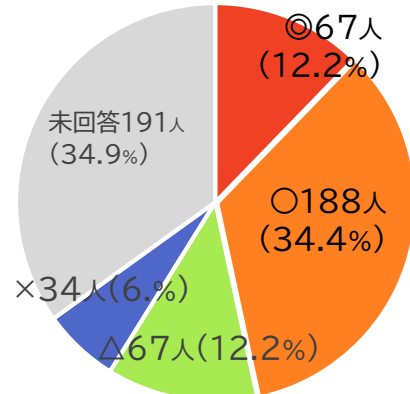
環境にやさしい暮らしに気
を付けようと思った



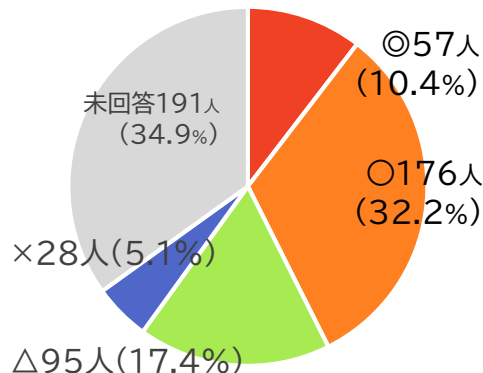
環境のために自分にできる
ことは何かを考えた



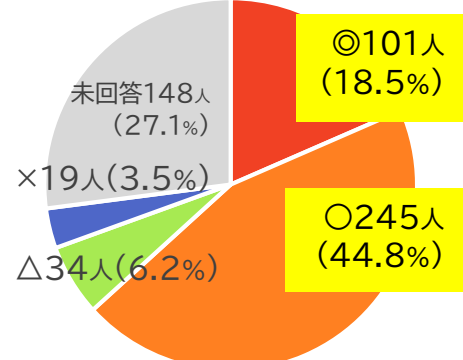
環境のことについてもっと
調べてみようと思った



これから実際にやってみた
いことがみつかった



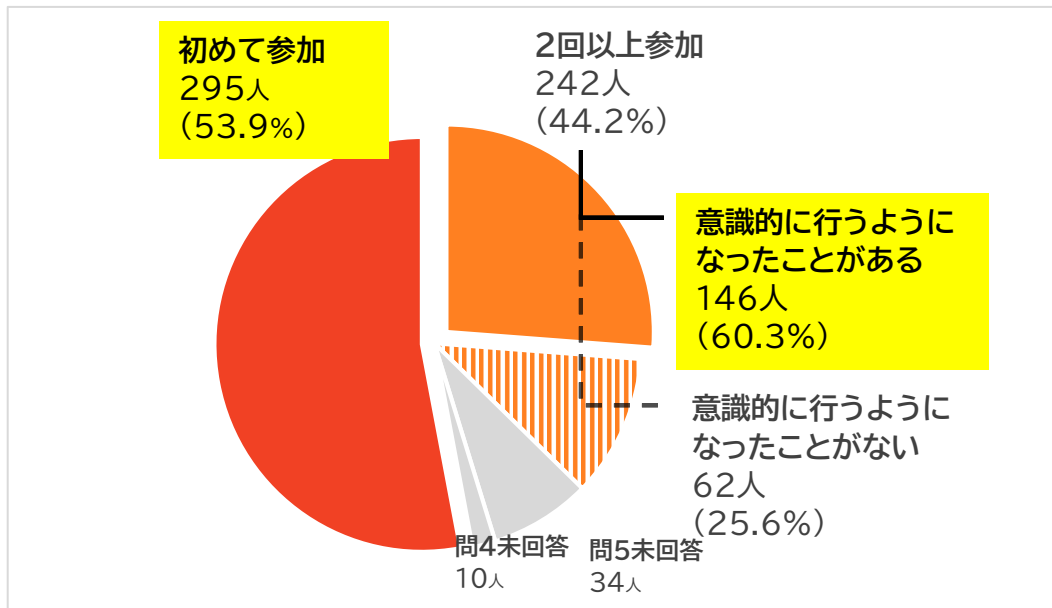
今日知ったことを人に話し
てみたいと思った



環境保全活動に関連する6項目のうち4項目は、「◎」もしくは「○」と答えた参加者の数が半数を超えている。いずれも環境問題と自分の生活を結び付けて考え、行動することにつながる内容であるため、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動に参加することを通して、市民の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができたと捉えられる。

■アンケート問4「活動への参加は何回目ですか」

アンケート問5「2回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。」について



「初めて参加した」と答えた参加者は 295 人/547 人と、アンケート回答者の半数以上である。実行委員会が企画した活動を、事務局の支援によってさまざまな媒体でより広い範囲に向けての広報活動を行ったことで、これまで環境に関心のなかった層にアプローチし、イベントに参加するという行動変容を促すことができた。

以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことについて、「ある」と回答した人数は 146 人/242 人と、6 割以上の対象者が、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動への参加が自分の生活の中での行動変容につながったと答えている。

以上の結果から、AOCE事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会への支援を通して主催活動を実施することで、主催活動への参加を通して市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたと言える。

3

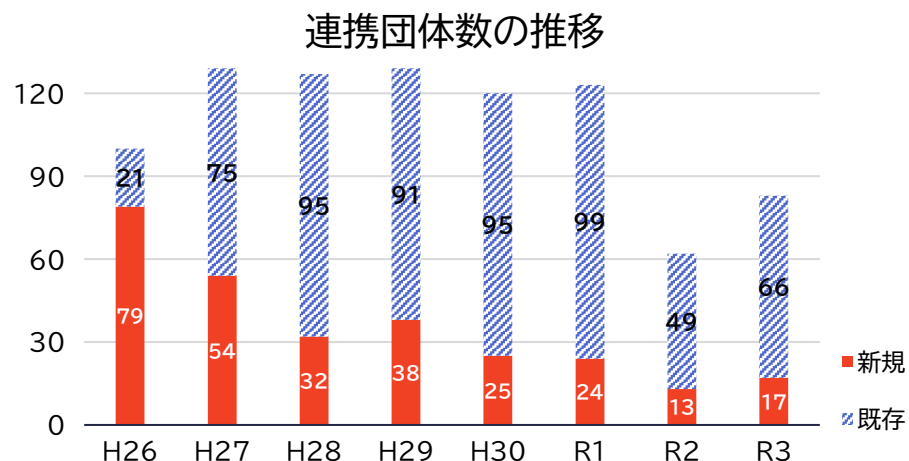
評価
指標

市内で活動する環境活動団体や企業、行政等とのネットワークを広げられたか。

測定
方法

これまでの連携団体数と新規連携団体数により測定

結果



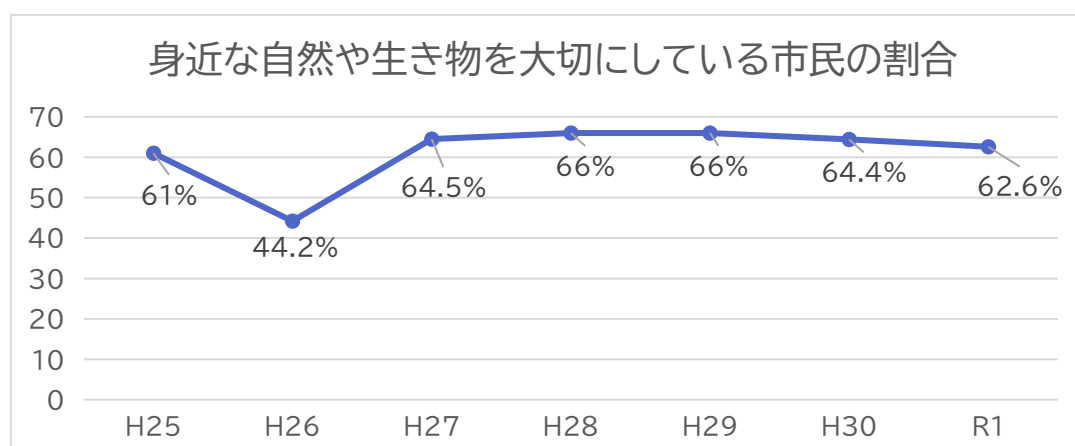
	これまでの連携団体数は、累計で 317 団体で、R3 年度新しく連携した団体は 17 団体である。R2 年度の新規連携団体数は 13 団体、R1 年度の新規連携団体数は 24 団体であった。 ・新型コロナウイルス感染症の流行という厳しい状況が続いている中ではあるものの、オンラインイベントの開催に挑戦したり、昨年度に引き続き web 会議を活用し団体同士で積極的に情報交換を行ったりしたことで、これまでにできたつながりを切ることなく、前年度連携団体数の 50%以上の団体と連携することができた。 ・事務局スタッフがボランティアセンターと連携し、ボランティアの活動の場を提供できるか積極的に検討したり、実際に地域とのつながりを求めているボランティアの方を受け入れる等、新しいつながりを作るとともに、活動を望んでいる市民に活躍の場を提供することができた。 ・イベントの際などはこれまでにつながりのある団体に事務局からこまめに連絡や報告を行っており、様々な団体と長期的につながりをもつことができている。 ・毎年安定して新規の連携団体と連携することができおり、尼崎市の環境活動のプラットフォームとして市内で活動する環境活動団体のネットワークを広げることができている。
--	---

3 総合評価

協働側面の評価	
	・今まで以上に意見の交換ができ、協働という立場で接することができたと感じる。(NPO AOCE) ・エコあまフェスタは今年度初めてオンラインでの開催に挑戦したが、協力し合いながら短い期間で準備、実施することができた。また、感染症への対策も協力しながら臨機応変に対応できた。 ・特定の事業においては新しい展開に挑戦し達成感があったが、全体を見るとすべての内容に達成感があったとは言えない。(NPO AOCE) ・団体や企業への声掛けは NPO、全市的な広報は市、というように、それぞれの強みを生かして活動計画を立て、進めることができた。(環境創造課) ・事務局のスケジュールを把握できておらず、負担をかけてしまった場面があった。事務局委託と実行委員会との関係性について、相互理解が進んでいないと感じる。(環境創造課)
事業効果の評価	
	・主催活動への参加を通じて参加者に行動変容を促すことができた。 ・主催活動「あるもんで交歓会」や「オープンカレッジ広場」について、活動場所周辺の地域住民への定着、環境意識の醸成を図ることができた。 ・昨年度から感染症の影響で活動件数自体が減っているため、参加者数もそれに伴い、例年に比べると減少している。しかし、今年度は感染症の影響化にありながら、コロナ禍でも安心して参加できるオンライン実施に挑戦したり、実地開催の活動にあたって事務局において感染対策を徹底した上で再開し、参加者数を伸ばしている。 ・市民ボランティアの協力によって成り立っている本事業において、ボランティアの方々が快く活動できるよう、事務局では、活動場所の用意や役割分担、各種事務連絡など事務的な面での支援と併せ、活動時の声掛け、取組の様子についてお互いにフィードバックや意見交換を積極的に行うなど、精神的な面での支援の両方を意識して行っている。ボランティアに参加する人は自発的に参加しており、本人の意識や熱意、体調などに加え、周囲の環境など様々な条件がそろわなければ実行が難しい場合も多々ある。そんな中、日ごろから事務局において上記に挙げた細やかな支援が行われているからこそ、ボランティアの定着や、継続した活動につながっていると考えられる。 ・特に「おもちゃ病院 塚口診療所」はコロナ禍においても市内外から多くの方に参加いただいております。ステイホームで家の中で使うものが目に留まりやすくなったり、環境に目を向けやすくなっ

た昨今の世相に沿った事業である。この事業は当日のボランティア（おもちゃドクター）の協力はもちろんのこと、事前のボランティアの調整、当日の参加者の整理、後日の修理済おもちゃの受け渡しや、コロナ禍で増加傾向にある問い合わせへの対応など、事務局の支援があるからこそ実施できる事業である。

・市民アンケートの「身近な自然や生き物を大切にしている市民の割合」については、平成 25 年度から高い割合で推移している状態である。自然や生き物を大切にするについて発信している活動は R3 年度は、21 世紀の森中央緑地にあるオープンカレッジの森で森の手入れや自然体験を行う「ヤギといくぼうけんの森」、自然の素材などを使って工作をする「エコ工作」、農業公園にいるヒメボタルの保全にむけ、生息数の調査や保全活動を行う「ヒメボタルの幼虫調査」などがあり、子どもから大人まで前年代が楽しめる活動がそろっている。さらに、より多くの市民に向けて発信するため、いままでとは違った切り口の活動や広報として令和 2 年度よりあまがさき環境オープンカレッジの広報誌「あまがさきエコ通信」の表紙で尼崎市内で観察された植物の紹介を行う記事を連載している。身近な植物を市民が撮影した写真を交えて紹介することで、身の回りの自然や環境に目を向けるきっかけ作りに貢献している。



総評

- ・市と団体それぞれの強みを生かし事業を行うことで、市民、企業、学校、行政など様々な団体との連携が進んだ。
- ・複数の視点から物事をとらえ意見交換をすることができた。
- ・市民目線から魅力的な活動を計画、実施することで、多くの新規参加者を獲得することができ、これまでより多くの市民に環境保全について広く啓発することができた。
- ・事務局業務を協働委託という形で実施することで、相互評価などをきっかけに互いの意思疎通ができ、事業の改善につながった。また、協働契約が 2 年目になり、いままで以上に意見の交換ができた。
- ・行政だけでなく市民とともに事業を進めることで、事業内容について多くの市民に身近に感じてもらうことにつながり、参加者の満足度が上がっていると感じる。